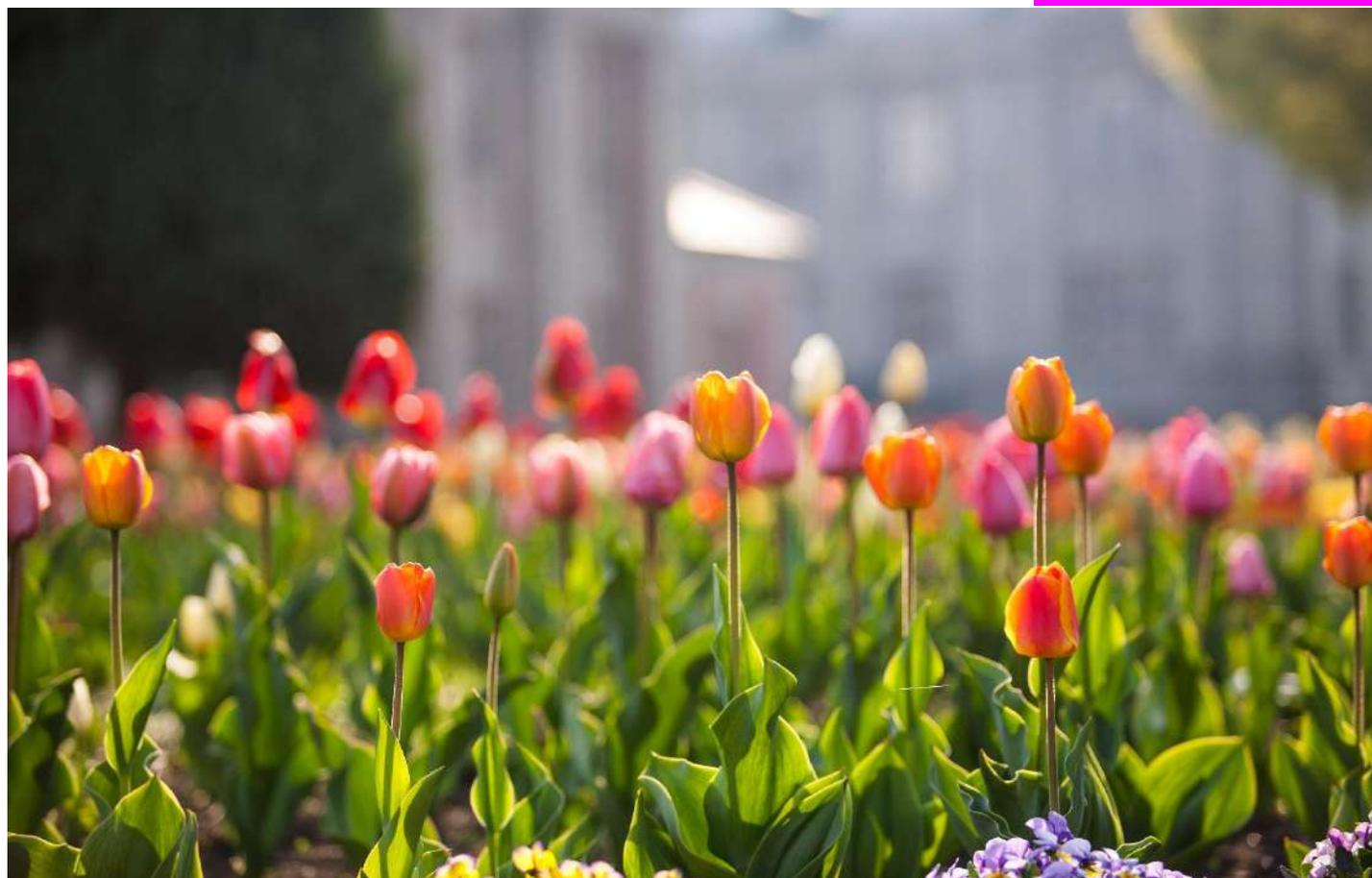


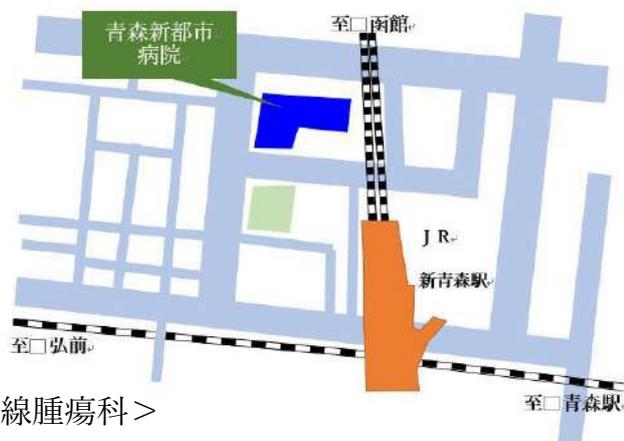
KADERU (かでる)



鮮やかな春のしらせ

— Contents —

- 「治療概念の変化」 青森新都市病院 副院長 末綱 太
- 寄贈品のお知らせ
- 施設のご紹介 . . .
 <まちだ内科・眼科クリニック>
- 医療功労賞受賞報告
- 医療・健康セミナー
 <頭のケガ・しばらく後からボケがくる>
- 今月の標語
 <ホウ・レン・ソウの徹底>
- 部署・施設紹介
 <科学のメスでがん治療を行います 放射線腫瘍科>
- 外来担当医表 <平成 31 年 3 月>



〒038-0003 青森市石江 3 丁目 1 番地
医療法人 雄心会 青森新都市病院
<http://aomorishintoshi-hp.yushinkai.jp/>

地域連携課 患者支援センター
直通：017-757-8785
FAX：017-788-9902

治療概念の変化 — Cure から Care, EBM から EBM+NBM, IC から ID へ —

現在、医療現場の治療における概念が変わりつつある。その原因として超高齢化社会になったこと、多くの新しい治療方法が出てきたこと、そして医療従事者の対応で治療成績が変わってくるのが分かったことなどがあげられる。脊椎外科で御高名な福島の菊池先生の治療概念の変化の話を思い出します。



我々医師は患者を治療する、治す(Cure)ことだけに頑張ってきた。しかし、超高齢化社会となり、治療が望めない人が多くなってきた。治療が望めなくなると、様々な苦痛を取り除き、楽な生活が送れるようにしてあげることが必要となる。すなはち、Cure より Care (世話)が必要となると推測される。

また近年医療の基本は EBM (Evidence Based Medicine, 根拠に基づいた医療)が重視されている。統計学的に有効性が示された治療を行うことで、より効果的な医療を提供するという考え方である。しかし、有効率は 100%ではなく、10 から 40%が有効でないということである。根拠となるデータが少ない疾患は特にそうで、EBM が適応できない患者さんの場合は、NBM (Narrative Based Medicine, 患者さんの物語に基づいた医療)、すなはち、その患者さんの病気になった経緯や背景、人間関係等を十分理解し、患者さんの抱えている問題についてアプローチしていくこと、客観的データに頼るだけでなく、EBM と NBM は対立ではなく、補完していくことが大切になってきた。

さらに、治療において、現在 Informed consent (IC, 説明と同意)、医療側から治療方法を提供し、それを患者さんに同意してもらうのが主流である。しかし、今後は Informed consent から複数の治療方法を提供し、それを患者さんが自らの考えで選ぶ、すなはち、Informed decision (ID, 説明と決定)へ治療方針を変えていくことが必要となってきた。

視点は病気ではなく、病人に置くべきであり、どのような治療をするのかではなく、誰を治療するのかを考え、患者が治療方針の決定や治療に参加すべき時代である。

いかに患者さんと良い信頼関係を築けるか常に医療従事者は心をくわさなければならない。そして、患者さん自身も、家族とともに自分で勉強することが大切であると説く必要がある。

青森新都市病院 副院長 末綱 太

寄贈品のお知らせ — プロジェクター・スクリーン —

平成 31 年 2 月 5 日に、青森市企画部競輪事業所様及び日本トータ(株)青森競輪事業所様よりプロジェクター並びにスクリーンをご寄贈いただきました。寄贈式には両事業所の代表者の方にご出席いただき、中島院長からお礼の言葉と感謝状を贈らせていただきました。

寄贈されたプロジェクターは、良質かつ適切な医療を提供するため、院内での職員研修や講演会等で有効に活用させていただきます。



一貫した地域医療を！

昭和61年5月に眼科医の妻と共に油川地区で開業以来、34年。地域住民の方々に支えられて年中無休で働いてきました。

糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の管理から、胃腸、肝臓、胆嚢、膵臓などの消化器疾患や心臓、肺疾患等の幅広い分野について診療しています。

皮膚科や肛門科なども内科と関係のある疾患の早期発見という目線から診療しています。

診療は、日祭日はもちろん、年末年始いつでも

可能で、時間外や救急車も可能な限り引き受けています。

病棟の有る医院は少なくなりましたが、関連の施設が多いためあって、病棟もフル稼働しています。

また、認知症のグループホームも、5カ所10ユニットがほとんど満床です。



今後とも医療介護の必要な方々のお役に立ちたいと考えております。

施設が全盛とはなりましたが、在宅への往診や訪問診療も毎日行っており、在宅での癌の緩和ケアにも対応しています。



病院長 町田光司

〒038-0058

青森県青森市羽白字沢田 39-4

社団医療法人 白鷗会

まちだ内科・眼科クリニック

電話 017(788)6688

FAX 017(788)3497



当院の柿崎先生が医療功労章を受章されました

当院の柿崎幸雄先生が「第47回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛)を受賞されました。この賞は地域医療への貢献者に贈られるもので、青森市急病センターの設立に尽力するなど、地域の医療に60年近く貢献してきた功績が評価されたものです。

柿崎先生は青森市出身で弘前大学医学部を卒業後、国立弘前病院などで勤務されました。1971年に青森市内で柿崎外科胃腸科医院を開業され、2014年10月に当院の前身である渡辺病院に勤務されるまで、約43年間診療を続けられました。そして、2017年の新病院の開設とともに移られ、現在は、「医療相談コーナー」で週4回(月・火・木・金 9:00~12:00)、患者さんや地域の方々を対象として、これまで培ってきた豊富な経験を基に、病気に関する悩み事や相談に対し助言

をされております。また、先生は気さくで飾らないお人柄なので、接する方々に親しみや安心感を与えてくださっています。

「責任が重大で神経を常に集中させる

外科医は体力が命」、「高齢者がいつまでも自分の手足を思い通り動かして歩けるような自立支援のあり方を目指したい」と強く話しており、現役の医師として活躍するため、今でも毎日200回のスクワットを欠かさず健康管理に心がけているとのこと。



平成 31 年 1 月 24 日に第 6 回医療・健康セミナーを開催しました。

今回のセミナーは当院の脳神経外科医の片山容一総長(脳と健康科学研究センター長)に

「頭のケガ・しばらく後からボケがくる」

～慢性硬膜下血腫の話～

というテーマでご講演いただきました。

頭部を打撲したり、転倒したり尻もちをついた際などに頭の中で脳が激しく揺れることがあります。一般的には病院を受診せずそのまま様子見するケースが多いと思いますが、頭を打った際の衝撃で頭の中ではじわじわと血腫(血液が溜まり腫れあがったもの)ができ、その血腫が脳を圧迫し変形させていき、その後 1～3 ヶ月経って忘れた頃に神経症状や認知症状などが出始めるのが慢性硬膜下血腫です。身近な人がボケ(認知症)てきたなと思っても、実は上記のような場合には手術などで治るものがあるというものでした。脳が縮んでいく認知症は治りにくいですが、認知症の中にはこのような治るタイプもあるので、適切な診断と治療を受けることが重要であると話されました。

質疑応答では実際に慢性硬膜下血腫を患い手術をしたことがある方や、頭を打撲したことがある方などから質問が多数あり、片山総長はひとつずつ詳しく回答され、他の参加した方々も非常に参考になったセミナーとなりました。

また、アンケートには「自分の不安がなくなり安心しました。とてもわかりやすい内容でした。」「自身もだが、家族に



とてもよい勉強になりました。」など様々な感想が寄せられました。

今回もご参加くださった皆さま、ありがとうございました。

次回の医療・健康セミナーは
3月14日(木)16:30～17:30
乳腺・甲状腺外科、西隆医師による
「甲状腺がんってなんですか？」
～甲状腺がんの診断から治療まで～
を開催いたします。
多数のご参加をお待ちしています。

今月の標語

－ ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談) －の徹底

日々の業務のなかでの報告や連絡、イレギュラー対応やクレームなどの相談、会議の決定事項の周知・・・。

普段から状況や問題を共有しておくことで業務もスムーズになりますし、有事の際もスムーズに対応できることで問題を最小限に抑えることができます。

**ミーティングや会議での決定事項はもれなく周知していますか？
皆で情報共有できる環境を整えていますか？**

現在我が国では、年間で新たに90万人近い人ががんと診断されている（国立がん研究センターがん統計、2014年で867,408例）。また同統計によれば、2016年には372,986人ががんで死亡したと報告している。年代は異なるが、新規がん患者に対し約4割の人ががんで死亡していることになる。超高齢化社会におけるがん医療においては、外科手術、化学療法、最新の免疫療法に加え、放射線治療のそれぞれの役割を最大限に活用しつつも、財政を圧迫し続けている医療費の経済面での適正化をも念頭におく必要がある。放射線治療は決して万能という訳ではないが、その最大の特徴である機能／形態温存に優れ、全身ありとあらゆるがん種に適用可能、さらにはがん終末期医療においても転移性がん、緩和目的の利用が可能という点で、他の療法とはその役割が大きく異なる。

欧米では、がん患者の6～7割が治療の過程で放射線治療を受けている。我が国ではどうか？ 日本放射線腫瘍学会の調査によると、2012年時点で年間25万人と報告しており、年間90万人の新規がん患者からすると、高々3割しか放射線治療を受けていないのが現状である。



当院では、世界最高位の性能をもつ放射線治療システムを導入した。地域の違いによって、治療内容に格差があってはならないとの思いからである。その患者や地域の医療関係者の期待に応えることが、我々新規に放射線治療に参入する者の最低限のマナーであり、やがてそれは地域医療の活性化に発展していくものと期待している。

最新システムを導入するにあたり、システムの精度管理や放射線治療の技術的な医師のサポートのために、専任の医学物理士(※)を確保した。

診療科においては、頭蓋内病変（良性腫瘍を含む）に放射線科外科（Radiation Surgery）を担当する脳神経外科医と、体幹を担当する放射線腫瘍科医（東京女子医科大学放射線腫瘍科）それぞれ経験豊かな担当医が診療にあたっている。

放射線治療は、“科学のメスでがんを切る”と言われるが、そのメスの切れ味を最高の状態にする医学物理士と、メスをどのように使用すれば最高の治療に導けるかを適切に判断する専門医がタッグを組んで、最新放射線治療に取り組んでいる。

青森新都市病院 外来担当医表 (平成31年3月)

※ 予約の際は、電話で診察日の調整をさせていただきますので、事前にご連絡をお願いいたします。

診療科		月	火	水	木	金		
脳神経外科	午前	太田 潔	福島 匡道◆ (5・19日) 前田 剛◆ (12・26日)	片山 容一	梅森 勉	羽入 紀朋	◆日本大学 派遣医師	
	午後	梅森 勉	福島 匡道◆ (5・19日) 前田 剛◆ (12・26日)	片山 容一	羽入 紀朋	太田 潔		
形成外科	午前	中島 龍夫●	岩寄 大輔●	岩寄 大輔●	岩寄 大輔●	中島 龍夫●	●予約制	
整形外科	午前	末綱 太●			末綱 太●	末綱 太●	●予約制	
	午後	末綱 太●			末綱 太●	末綱 太●		
外科	外科・消化器外科	午前	高屋 誠吾		高屋 誠吾			
	乳腺・甲状腺外科	午前	西 隆●		西 隆●		西 隆●	●予約制
		午後	西 隆●		西 隆●		西 隆●	
	静脈瘤治療外来	午前				小西 宏明 (14・28日)		
午後					小西 宏明 (14・28日)			
内科	午前	三浦 心▲	三浦 心	工藤 茂昭	三浦 心	工藤 茂昭	●予約制 ▲新患優先 ◆岩手医科大 派遣医師	
		工藤 茂昭	福島 彬裕		伊藤 智範◆ (28日)	福島 彬裕		
	午後	福島 彬裕 (受付15:00迄)	福島 彬裕 (受付15:00迄)	工藤 茂昭	三浦 心●	工藤 茂昭		
リハビリテーション科	午後				木下 翔司			
	特別	2日(土) 9:00 ~ 安保 雅博 ● ◆					●予約制 ◆東京慈恵医科大学 派遣医師	
放射線腫瘍科	午前	橋本 弥一郎◆ (18日)	橋本 弥一郎◆ (5日)		唐澤 久美子◆ (14・28日)		◆東京女子医大 派遣医師	
	午後	橋本 弥一郎◆ (18日)	橋本 弥一郎◆ (5日)		唐澤 久美子◆ (14・28日)			
歯科	午前	柿崎 大和 (4・18日)		富樫 洋介	富樫 洋介	数坂 隆		
	午後	柿崎 大和 (4・18日)		富樫 洋介	富樫 洋介 数坂 隆	数坂 隆		



最高気温が氷点下となる日もありましたが、それも落ち着き、春の足音もスギ花粉と共に近づいてきているようです。

私は寒い季節、主に室内で運動することが多いのですが、ここ数年、バドミントンに熱が入っております。上手な人のマネをしたり、動画を見て研究など……。しかしこの間「今以上を目指すなら基本部分

の見直しを」とコーチに言われてしまいました。どうも無学・自己流の癖が上達の妨げになっているようなのです。基本とは「何をするにも」大切であり立ち返る場所なのだと思えて実感した出来事でした。

(T.H)

地域連携だより
「KADERU」
編集顧問 中島 龍夫
末綱 太
片山 容一